
大学のまち京都・学生のまち京都 推進計画

概要版



「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」

京都市長

門川 大作



京都のまちは、山紫水明の自然と調和した優れた文化を創造するとともに継承してきた1200年を超える悠久の歴史を持つ世界に誇る「文化首都」です。

京都が今日でも、こうした個性と魅力あふれるまちとして、独自の地位を占めているのは、京都が持つ知恵と力、即ち京都力を活かして、伝統を守ると同時に、進取の気風により、常に創造を加えてきたためであります。そして、その土台となるのが大学をはじめとする知の集積であり、ノーベル賞受賞者を数多く輩出するなど、世界を代表する学術研究都市であったからこそであります。

こうした「知」をさらに深め、未来へと発展させるため、京都市は、大学振興を市政の重要な柱の一つと位置付け、先駆的な取組を展開してきました。

平成5（1993）年には、21世紀に向けた「学問のまち、大学のまち・京都」の将来像を示す「大学のまち・京都21プラン」を策定し、平成10（1998）年には、我が国で初めてとなる大学コンソーシアム京都を設立。さらに、平成16年4月には、後継計画として、「大学のまち・わくわく京都推進計画」（計画期間 平成16年度から平成25年度まで）を策定し、平成20（2008）年3月までに、すべての事業に着手するなど、着実に取組を推進してきました。

一方、平成18（2006）年12月の「教育基本法」の改正に加え、大学教育も含めた「教育立国」の実現に向けた国の指針となる「教育振興基本計画」の策定、急激な少子化に伴う大学入学人口の減少や定員割れの大学の増大等、高等教育を取り巻く状況は、大きく変化しています。

そのため、京都市と財団法人大学コンソーシアム京都は、協働で、「大学のまち・わくわく京都推進計画」を一新し、更に、「大学のまち」の推進から、学生が生き生きと輝き、京都の大きな力となる「学生のまち」を目指し、この度、「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」を策定しました。

今後、京都市と大学コンソーシアム京都とは、大学、学生、企業、地域、NPO等の皆様とも連携し、この計画を着実に推進して参りますので、市民の皆様のより一層の御理解、御協力をいただきますようお願いいたします。

結びに、計画策定に御尽力を賜りました「大学のまち京都推進会議」、同サポートティング・グループ、新計画検討委員会の委員の皆様をはじめ、関係団体の皆様、多くの御意見をお寄せいただきました市民の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成21年2月

策定にあたって —ご挨拶—

財団法人大学コンソーシアム京都

理事長 八田 英二



京都には、市内を中心に数多くの大学・短期大学が集積しています。その都市特性を活かすため、京都市と大学を中心とした产学公の連携により、全国で初めての大学コンソーシアムが設立されました。この間、前身の京都・大学センターから数えると15年間にわたって、各種の先駆的な取組を進めて参りました。

現在、大学は学生数の減少をはじめ、国際的な競争の激化など、厳しい現状となっております。また、大学設置基準の大綱化に端を発し、大学の質保証における第三者評価制度の導入、FD（教員の教育力向上）の義務化などの課題、入学する学生の多様化に伴う初年次教育の必要性、大学の国際化を目指した留学生受入れの推進など、大学を取り巻く環境は激動しております。

このような状況に対応するため、大学では、それぞれの特徴・個性を活かした魅力・教育の質の向上に努めているとともに、個別に競争的な取組を進めるだけではなく、「大学のまち京都」として京都地域全体の魅力を高めることが必要であるとの認識から、大学コンソーシアム京都が中心となり、京都の大学が一丸となって各種取組を進めてきたところです。

しかし、現存する様々な課題を解決するためには、大学の力だけでは実現しないことが多いります。京都市をはじめとする行政、経済界、地域の方々などの協力が不可欠であり、まさに京都が一丸となって取り組んでいく必要があります。

また、大学側からの社会貢献という視点も重視されており、研究・教育に続く大学の第3の使命として地域貢献が求められています。京都の大学の「知」の財産や、学生のエネルギーを活かしていただき、「大学」と「京都のまち」が相乗効果を生み出して、お互いを高め合えるようにと期待するところです。こうしたことから、大学コンソーシアム京都においても、新ステージにおけるミッションを「「大学のまち京都」ならではの新しい地域連携モデルを活かした高等教育の質の向上」として掲げ、新たな取組を展開することとしております。

この計画は、京都市とともに、产学公地域の皆様との熱心な議論、協働作業により作成したものであり、「世界に誇る「大学のまち」「学生のまち」」の実現に向けた、これから5年間の道しるべとなるものです。計画を推進するなかで、京都の魅力をさらに高め世界に発信していくこと、「大学のまち京都」が一層輝きを増していくことを強く願っております。

結びに、計画策定に当たり、様々な御尽力・御支援をいただいた、「大学のまち京都推進会議」委員の方々をはじめとする関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成21年2月

「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画」の構成

計画の特徴

- 初めて、京都市と（財）大学コンソーシアム京都とが協働で計画を策定し、推進します。
- 従来の「大学のまち」に加えて、「学生のまち」の推進を図ります。
- 国の「留学生30万人計画」の方針を踏まえ、本市においても留学生倍増（1万人）を目指します。

第Ⅰ編

これまでの
「大学のまち京都」推進
への京都市・財団法人
大学コンソーシアム京都の取組

第Ⅱ編

「大学のまち京都」
「学生のまち京都」
の意義

第Ⅲ編

「大学のまち京都」を
取り巻く
状況と課題

第Ⅳ編

目指すべきビジョン
世界に誇る「大学のまち」「学生のまち」

第Ⅴ編 施策の推進

学生の確保に向けた「学びの環境」の充実

京都で学びたくなる 「大学のまち」の仕組みづくり

- (1)大学連携による「大学のまち京都」の競争力強化
- (2)京都ならではの学習プログラムの開発・提供
- (3)「大学のまち京都」の国内外への効果的な発信
- (4)京都の景観を形成する大学施設の積極的な整備
- (5)民間からの寄付による大学支援の促進

大学の国際化に向けた、優秀な留学生等の 受入拡大と国際社会に対応した人材の育成

留学生等の飛躍的な増加に向けた 「広報」「支援」「交流」

- (1)海外からの優秀な留学生等の増加に向けた取組
- (2)留学生や研究者等への生活支援
- (3)京都における生活を豊かにする取組
- (4)国際社会に対応した人材の育成

パワーあふれる「学生のまち京都」の実現

学生が持つエネルギーによる 「京都力」の強化

- (1)学生の主体的活動への支援
- (2)学生のエネルギーを「京都力」向上へつなげる取組
- (3)学生の未来に向けた取組

産学公地域連携の推進による京都地域の活性化

産業・地域の活性化、研究成果の活用に 向けた連携強化

- (1)産学公の連携により、京都の経済を活性化し、雇用を創出する仕組みづくり
- (2)大学・学生と地域との連携の促進
- (3)小中高大(院)連携の推進
- (4)大学との連携による研究の推進と活用

計画の推進

第Ⅰ編

これまでの「大学のまち京都」推進への京都市・財団法人大学コンソーシアム京都の取組

京都市における取組

- ・昭和60（1985）年
大学振興の推進に向け、大学問題対策委員会を設置
- ・昭和61（1986）年
京都市と大学が相互理解を深め、意見交換を行う場として、「京都市・大学事務連絡協議会」を設置
- ・平成2（1990）年
市役所内に総合的な大学政策に取り組む「企画調整局活性化推進室都市政策課」を設置
- ・平成5（1993）年
大学と地域の総合的な発展を図る「大学のまち・京都21プラン」を策定
- ・平成7（1995）年
「京都市大学施設整備支援・誘導制度」の創設と、大学施設整備支援窓口の設置
- ・平成10（1998）年
産学公連携のもと、我が国で初めての大学コンソーシアムである「財団法人大学コンソーシアム京都」を設立
- ・平成12（2000）年
京都駅前に「京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）」を建設
- ・平成16（2004）年
「大学のまち・わくわく京都推進計画」を策定

大学コンソーシアム京都は、キャンパスプラザ京都を拠点として活動しています。

大学コンソーシアム京都における取組

大学コンソーシアム京都は、「京都・大学センター」（平成6（1994）年）を前身に、平成10（1998）年に設立。

京都・大学センター時代を含む、平成6（1994）年から10年間を「第1ステージ」、平成16（2004）年からの5年間を、「第2ステージ」として、大学連携による取組を着実に推進し、現在、「第3ステージプラン」（実施期間：平成21年度から5年間）策定に向け、大学政策委員会を設置し、検討を行っています。

今後更に、全国の大学コンソーシアムのパイオニアとして、社会的要請の高い教育プログラムの開発と推進を行っていきます。

大学生を対象とした事業 単位互換事業、インターンシップ・プログラム など

生涯学習事業 「京（みやこ）カレッジ」 など

第Ⅱ編

「大学のまち京都」「学生のまち京都」の意義

学生や研究者、大学の活動は、「京都力」を高める上で、重要な役割を果たしています。

1 学術研究都市としての都市格の向上

大学の集積により、学術研究、文化芸術、国際交流、新産業創出等の発展、大学の国際的な情報発信・人材交流による都市格とまちの魅力の向上への貢献

4 地域の教育力の向上

大学の知的資源による保育所・幼稚園・小中高・統合支援学校等の教育レベルの向上と、市民の生涯学習機会の提供への貢献

2 産業・経済効果

産学公連携による産業科学技術振興の促進、大学・学生による経済効果、人材・労働力としての貢献

5 文化・芸術等の振興

伝統的な技能・技法への先端技術の活用や学生の力等による文化・芸術発展への貢献と、個性あふれる大学の集積による文化首都の地位の向上

3 優秀な人材の集積及び輩出

国際的に活躍する人材の育成・輩出による京都の発展への貢献と、留学生の母国と京都との架け橋としての貢献

6 学生と地域との連携による、まちのパワー向上

社会貢献活動や地域活動への学生の参画による、まちの活力の創出・向上

第Ⅲ編

「大学のまち京都」を取り巻く状況と課題

学生数の減少と厳しさを増す大学経営

18歳人口の減少など、大学の経営を取り巻く環境は厳しさを増しています。

大学の国際化の必要性

国の方針や支援策を生かした、優秀な留学生の受入拡大への取組の強化が必要です。

大学の都心への回帰

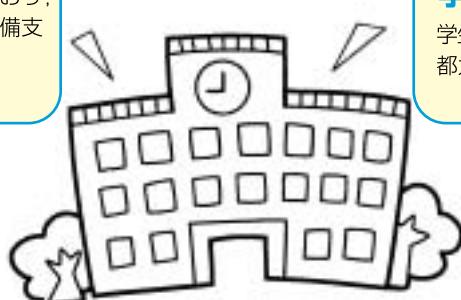
大学の京都市内への回帰が進んでおり、周辺環境と調和した大学施設の整備支援が必要です。

未来の京都を担う学生のエネルギー

学生パワーを地域活性化につなげる「京都力」を高める仕組みが必要です。

ICTを活用した大学講義や生涯学習

時間的・地理的制約を受けずに学べるICTの活用が求められています。



京都経済の活性化のための産学公連携の強化

産学公連携による産業振興の推進が必要です。

大学と地域との連携促進

地域の課題解決や活性化につながる、大学と地域の連携促進が望まれます。

京都らしさ、京都ならではの大学の魅力

伝統的な文化芸術や祭り、イベントなどの参画を通じ、京都で学ぶ魅力を高める必要があります。

「大学のまち京都」の発展に向けた更なる大学間連携の必要性

大学連携の優位性を活かし、国内外への存在感を高めることが求められます。

世界に誇る 「大学のまち」 「学生のまち」

少子化の急激な進行と、グローバル化による国際競争が進む中で、我が国の社会の活力を維持し、更に向上していくためには、先見性や創造性、卓越した指導力を持つ人材を幅広く得ることとその育成が不可欠であります。

また、京都が、将来にわたって、引き続き発展を遂げるためには、学生・教職員の力を高め、大学の知の集積を新産業の創出や芸術文化の創造に活かすことが必要であります。

そのため、この度策定する計画では、国内でも他に比類ない「大学のまち」として、一層の飛躍を遂げるため、京都ならではの「学びの環境」を充実するとともに、産学公及び地域の連携によるまちづくりを更に進めて参ります。

また、「学生のまち」として、留学生を含む優秀な学生等の増加に向けた取組の推進・人材育成に力点を置くと同時に、学生のパワーにより、京都力を高め、未来の京都づくりにつなげていきます。そして、魅力と個性あふれる「世界に誇る「大学のまち」「学生のまち」」の実現を目指して参ります。



第V編 施策の推進

学生の確保に向けた「学びの環境」の充実

戦略ポイント

京都で学びたくなる「大学のまち」の仕組みづくり

① 大学連携による「大学のまち京都」の競争力強化

大学連携の力と経験を活かし、各大学の共通課題・事業への取組や、各大学の運営を合理化、機能強化を促進します。

重点

◆ICTを活用した次世代型単位互換制度の構築

各大学の持ち味を活かし、単位互換制度の内容・構成の魅力を更に高めるとともに、ICT（*1）を活用した次世代型単位互換制度の構築を推進します。

◆大学連携による教員・職員の能力向上の取組強化

教員の教育力向上（FD：ファカルティ・ディベロップメント）や職員の職能開発（SD：スタッフ・ディベロップメント）等のプログラムを開発し、大学連携による教員・職員の質の向上のための取組を支援します。

◆大学間の連携による各種イベント等の共同開催の推進

ちょっと注目

ICT活用が生み出す可能性!

ICTの活用は、OCW（*2）、eラーニング（*3）、遠隔授業等の手法を用い、授業の多様化、時間的・地理的条件の解消、広報発信など、様々な側面において、大学講義、生涯学習の発展が期待できます。

(*1) ICT : Information & Communication Technologyの略
(ITは、Information Technology)

情報通信技術の略であるが、情報通信におけるコミュニケーションの重要性をより一層明確化するために、平成17年度ICT政策大綱において、ITからICTに表現変更の方針が示された。

(*2) OCW（オープンコースウェア）

大学等で正規に提供された講義とその関連情報をインターネット上で、無償公開すること。

(*3) eラーニング

コンピューター等、情報技術を用いて行う学習方法。特徴として、教室で学習を行う場合と比べて、遠隔地にも教育を提供でき、また、コンピューターならではの教材が利用できる。

② 京都ならではの学習プログラムの開発・提供

京都が育んできた多様なストックを活かし、京都ならではの学習プログラムの創出と、個性豊かな大学が集積する京都の優位性と特長を活かした学びの魅力を広く発信します。

重点

◆伝統的な文化芸術等京都ならではの学習プログラムの開発・提供

京都の伝統的な文化芸術（歌舞、茶道、華道、香道、食文化、雅楽、邦楽、能、狂言等）や、新しい文化・技術（映像、マンガ・アニメなど新しいコンテンツ、ICT、先端技術等）を活かした体験型学習の充実等、京都ならではの学習プログラムを開発・提供するとともに、各分野の第一人者によるプレミアムな講座の開設を検討します。

ちょっと注目

新しい京都の魅力、 「マンガ」を世界へ発信!

日本は、マンガのメッカとも言われ、世界中から注目が集まっています。

京都市では、平成18年度に、京都精華大学と協働で、京都国際マンガミュージアムを設置し、国内外に向けて新しい京都の魅力を発信しています。

◆「芸術系大学コンソーシアム」の創設等による、 芸術創造都市としての発信

③ 「大学のまち京都」の国内外への効果的な発信

様々な広報媒体や広報手段の活用により、京都ならではのプログラム等「大学のまち京都」の魅力を国内外へ発信・PRします。

高校生への広報・PRの強化や修学旅行の誘致と修学旅行生への京都魅力発信に取り組みます。

◆インターネット等を活用した、高校生への広報・PRの強化

◆修学旅行の誘致と「きょうと 修学旅行ナビ」等を活用した修学旅行生への京都の魅力発信

◆単位互換制度等、京都ならではの学びのスタイル等の、国内外への幅広い広報・PR



ちょっと
注目

きょうと 修学旅行ナビ

(URL) <http://kyotoshugakuryoko.jp/>

修学旅行生の専用サイトでは、修学旅行に役立つ情報が満載！

- 京都の大学、キャンパス体験情報
- 優待施設を紹介する「京都修学旅行パスポート」
- 寺院・神社・文化施設、体験学習に関する情報

④ 京都の景観を形成する大学施設の積極的な整備

新景観政策にも対応した「大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」（平成20年度末改訂予定）により、京都のまちの景観を形成する大学施設の整備の積極的な促進を図るとともに、町家等を活用したサテライトキャンパスや活動拠点等の設置を推進します。

重点

◆大学施設整備の支援と誘導

新景観政策にも対応した「京都市大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」（平成20年度末改訂予定）に基づき、周辺地域の景観やまちづくりに合った施設整備を進めます。

また、地域への開放を促進し、京都の景観やまちづくりに配慮するなどの良好な大学施設の整備に対しては、都市計画上の規制等の弾力的な運用や京都市の市有地の活用などを行い、大学施設の展開・立地を支援します。

◆町家等を活用したサテライトキャンパス等、京都ならではのキャンパスづくりの推進

⑤ 民間からの寄付による大学支援の促進

京都市では、新たな寄付金税制を活用し、大学に対して寄付をされた方の個人市民税の税負担を軽減することにより、大学に対する民間からの寄付を促し、大学振興を図ります。

◆新たな寄付金制度を活用した、大学への寄付の増進

大学の国際化に向けた、優秀な留学生等の受入拡大と 国際社会に対応した人材の育成

戦略ポイント

留学生等の飛躍的な増加に向けた 「広報」「支援」「交流」

1 海外からの優秀な留学生等の増加に向けた取組

国の「留学生30万人計画」の方針を踏まえ、留学生倍増（1万人）を目指し、京都の大学の国際化及び優秀な人材の集積のため、留学プログラムの充実、交換留学・姉妹校提携の推進、そして京都のまちや大学の魅力の発信により、留学生、外国人研究者等が京都の大学で学びたくなる仕組みをつくります。

重点

◆大学の枠を超えた留学プログラムの開発

大学の枠を超えて、コンソーシアム間（大学コンソーシアム京都と海外のコンソーシアム）の留学プログラムを開発し、留学生を確保するとともに、より効果的な留学生受入体制を構築します。

◆海外への発信力強化

京都の大学をPRできる海外イベント等におけるプロモーション活動、英語等のホームページによる留学生等への支援策や留学先を探す際に必要な各大学情報の発信、インターネットを活用したeラーニングによる京都らしい講座の紹介等、世界への発信力を強化します。

◆単位互換制度の充実による英語等による授業の推進

◆海外留学生フェアを活用した、京都の大学のPRによる交換留学制度等の推進

◆留学生や留学生OB・OGからの「口コミ」ネットワークづくり

◆国際会議等コンベンションにおける京都の魅力と大学の発信

2 留学生や研究者等への生活支援

海外からの留学生や研究者とその家族が、京都で安心して満足な生活を送ることができるよう、住宅をはじめとする暮らしの支援に努めます。

重点

◆留学生等への住宅に関する支援

留学生や研究者等を受け入れるため、京都市の市有地を大学に有償で提供する等、大学と連携した住宅の整備や民間の住宅の活用促進につながる支援、短期滞在者向け住宅の提供促進を行うとともに、引き続き京都市の改良住宅の留学生への提供や英語等での住宅情報の発信等を推進します。

◆相談窓口の充実等、海外からの留学生等と その家族への支援

◆インターンシップへの参加や就職機会の拡充等、 留学生に対する就職支援

ちょっと 注目

京都市国際交流会館

日本人も外国人も共に生きるパートナーとして互いに支え合う関係が作れる拠点施設です。

事業紹介

○留学生就職支援事業（ジョブフェア等）

○国民健康保険料補助事業 ○留学生ホス

トファミリー制度 ○在住外国人のための生

活相談 ○メッセージコーナーの運営（web

版含む）○住宅フェアの開催やHOUSE

naviの運営）など

③ 京都における生活を豊かにする取組

留学生がその能力を活かして京都で活躍し、帰国後には母国と京都との架け橋となるよう、京都における留学生生活の充実と、京都を好きになってもらうきっかけづくりを推進します。

重点

◆世界の学生が交流する機会の提供

留学生等の生活を豊かにし、京都のまちの国際化につなげていくため、「京都国際学生祭典（仮称）」や「京都国際音楽祭（仮称）」、国際映画祭等、世界の学生が交流する機会を提供します。

◆京都が好きになるきっかけづくり

留学生が、気軽に京都の様々な施設を見学・体験することにより、京都の文化芸術に親しみ、京都を好きになるきっかけとなるよう、京都市の元離宮二条城、京都国際マンガミュージアムをはじめとする文化施設の一定期間無料入場や、コンサート等イベントへの招待等「留学生優待プログラム（仮称）」を創設します。

◆留学生と日本人学生との協働・連携・交流の促進

留学生のパワーと日本人学生とのパワーの結集によって活動が活発化し、国際的な発信の媒体になるよう、世界遺産元離宮二条城において、学生運営によるお茶会をはじめとする留学生との交流会開催等、学生の主体的な活動における留学生との交流を支援します。

◆留学生との交流を促進するため、京都の伝統的な文化芸術等の体験活動への支援

ちょっと 注目

留学生優待プログラムとは？

- 京都国際マンガミュージアムや京都市所有の元離宮二条城、京都市美術館等の文化施設に無料入場できる「留学生パスポート（仮称）」発行（無料入場期間 8月及び2月）
- 元離宮二条城における留学生交流会の開催
- 京都市交響楽団定期演奏会等への無料招待
<いずれも実施時期 平成21年度（予定）>

④ 國際社会に対応した人材の育成

グローバルな視点を持ち、国際社会で活躍できる人材育成に向け、教育の質の向上に取り組むとともに、海外に留学した日本人学生が母国の魅力を伝えられるよう、京都の歴史や文化に関する教養を習得できるプログラムを開発します。

重点

◆日本人学生の海外への留学増加に向けた取組

大学の枠を超える、コンソーシアム間（大学コンソーシアム京都と海外のコンソーシアム）での留学プログラムを開発し、日本人学生が安心して留学できる仕組みづくりを検討します。

◆日本人学生の、海外の大学に対応できる学習能力構築に向けた講座の充実

◆伝統的な文化芸術等京都ならではのプログラムの開発・提供〈再掲〉



パワーあふれる「学生のまち京都」の実現

戦略ポイント

学生が持つエネルギーによる「京都力」の強化

① 学生の主体的活動への支援

「輝く学生応援プロジェクト（仮称）」や、日本人学生と留学生との交流促進等により、学生のパワーを高め、活動を活発にするための取組を推進します。
また、活動に役立つ知識習得や能力向上につながるプログラムを開発・推進します。

重点

◆学生の活動を応援するプロジェクトの展開

京都のまちの活性化に学生のエネルギーを活かすため、京都学生祭典への支援、キャンパスプラザ京都等も活用した、学生の活動の拠点づくりや、「学生の日」の創設、キラリと光る学生、地道に社会貢献する学生等を応援するための表彰・支援等の「輝く学生応援プロジェクト（仮称）」を学生の参画のもと展開します。

◆世界の学生が交流する機会の提供〈再掲〉

留学生等の生活を豊かにし、京都のまちの国際化につなげていくため、「京都国際学生祭典（仮称）」や「京都国際音楽祭（仮称）」、国際映画祭等、世界の学生が交流する機会を提供します。

◆京都の魅力に触れる学生生活への支援

京都で学生生活をおくるうえでの魅力を高めるため、三大祭や京都・花灯路への参画等、学生が、京都の伝統的な文化に触れる機会を広げるとともに、各種施設が利用しやすくなるよう、京都市施設の学生割引推進と各種施設への働きかけを行います。

◆活動能力向上に向けたリーダーシップ研修等と学生同士の大学間交流の促進

◆駐輪場整備をはじめとする、学生の活動範囲を広げる仕組みづくり

◆自主的な活動の場やサービスの提供等、多様な学生をサポートする体制整備



青少年ボランティア活動の様子
～サンタクロースプロジェクト～

ちょっと注目

青少年活動センター

青少年の健全な育成と自主的な活動の促進の拠点として、市内7箇所に設置しています。音楽スタジオやレッスンスタジオ等、青少年の創造的な活動を支援する施設の提供のほか、若者の意見を市政やまちづくりに生かす場づくりや青少年の社会参加を促進する事業を実施するなど、様々な取組を進めています。

2 学生のエネルギーを「京都力」向上へつなげる取組

学生の主体的な活動を推進するとともに、学生が持つエネルギーと自治会組織や商店街等の地域との協働を促進し、「京都力」の向上につなげます。

重点

◆学生と地域やNPO等との交流・連携の推進

学生と地域との交流促進に向け、地域の祭りや行事への学生の参画を促進するコーディネート機能を構築します。また、市民活動総合センターでは、学生がNPOや他の学生と交流できる場を提供します。

◆学生主体の環境に関する取組と京都市「DO YOU KYOTO?」プロジェクトとの協働

◆京都学生消防サポーター制度活用による、学生の力を地域の自主防災につなげる仕組みづくり

◆市政運営の企画・実施・評価等の各過程における学生の参画促進



ちょっと注目

京都市市民活動総合センター

市民活動総合センターは、NPOやボランティア団体等による公益的な市民活動を、特定の分野や領域を超えて、総合的に支援するとともに、市民の交流及び連携の促進を図るための拠点施設です。

市民活動総合センターの活用で、学生の活動のパワーアップが図れます！

3 学生の未来に向けた取組

学生にとって大学生活は、今後の社会における活動のための、能力向上と社会経験の蓄積のための重要な期間であり、その学生の将来が輝かしいものとなるよう、職業教育の推進や京都の学生が京都のまちで活躍できる仕組みづくりを行います。

重点

◆卒業後の未来設計図を描くきっかけづくり

大学卒業後の将来設計が描けるよう、産業界との連携により、インターンシップ・プログラム、アントレプレナーシップ（起業家精神）教育等の更なる推進と、新たな職業教育プログラムの研究・開発を行います。

◆卒業後に、能力を京都で活かせる雇用促進に向けた施策の検討



ちょっと注目

大学コンソーシアム京都のインターンシップ事業

大学コンソーシアム京都においては、「インターンシップ・プログラム」を、平成18（1998）年度より全国に先駆けて展開し、これまでに50の大学・短期大学から5,000名を超える学生が、就業体験を行い、また、延べ2,000を超える企業や行政機関、非営利組織（NPO等）にご協力いただいています。

産学公地域連携の推進による京都地域の活性化

戦略ポイント

産業・地域の活性化、研究成果の活用に向けた連携強化

1 産学公の連携により、京都の経済を活性化し、雇用を創出する仕組みづくり

京都経済の活性化と雇用の創出に向けて、伝統産業をはじめとする、京都特有の産業の振興や技術の継承、先端産業の振興、新産業・知恵産業等の「ものづくり産業」を産学公連携のもと推進します。

重点

◆京都ならではのものづくり産業の推進

ベンチャー企業の育成や知恵産業の創出を図るため、「未来創造型企業支援プロジェクト」(*1) や「知的クラスター創成事業」(*2) の推進、「知恵産業融合センター」(*3) の創設など、産学公連携により京都ならではのものづくり産業を振興します。

◆産学公連携の推進に向け、「京都産学公連携機構」(*4) を活用した、コーディネート機能の向上

◆産学公連携による地場産業・伝統産業等の技術の継承

◆インターンシップへの参加や就職機会の拡充等、留学生に対する就業支援〈再掲〉

◆卒業後の未来設計図を描くきっかけづくり〈再掲〉

◆卒業後に、能力を京都で活かせる雇用促進に向けた施策の検討〈再掲〉

2 大学・学生と地域との連携の促進

大学が、地域を教育研究の実践・体験の場としてすることで、京都のまち全体で学生を育てる仕組みをつくり、教育内容の充実と学生の人間としての成長につなげます。

また、地域にとっても大学と学生の力を課題解決につなげる機会として期待されることから、地域と大学の双方にとって有意義な連携を推進します。

重点

◆大学と地域との連携促進に向けた取組

「大学地域連携モデル創造支援事業」を充実するとともに、地域連携に関する取組の進め方に関するガイドブックや成功事例の発信、ポータルサイト(*5)の設置等への支援等、大学と地域の連携を支援する取組を展開します。

◆地域の課題解決につながる体験型学習等の地域型教育の研究

◆大学の図書館等の施設の開放、公開講座の開催等、地域や幅広い市民に身近な大学づくりへの支援

◆学生と地域やNPO等との交流・連携の推進〈再掲〉

◆京都学生消防サポーター制度活用による、学生の力を地域の自主防災につなげる仕組みづくり〈再掲〉



ちょっと注目

大学地域連携モデル創造支援事業

京都のまちの活性化に向けて、大学・学生と地域住民との連携・協働を、更に広げるため、先進的な取組を「モデル事業」として認定し、助成金を交付するなど活動を支援します。

③ 小中高大(院)連携の推進

京都市内には、特色ある取組を行い、全国から注目を浴びる公立学校に加え、数多くの私立学校が集積しています。大学（大学院）が、これら地域の小学校、中学校、高等学校、更には、保育所、幼稚園、総合支援学校等と連携することにより、保幼小中高大へとつながる教育についての研究やネットワークを構築します。



ちょっと
注目

「学生ボランティア」による学校サポート

現在、66の大学等と協定を締結し、1年間に約2,000名の学生がボランティアなどで、学校の教育活動支援に参画していただいている。担任の補助、学校行事、部活動等の補助をしていただいている。

また、教職を目指す多くの学生をインターンシップとして受け入れています。

◆京都高大連携研究協議会を中心とした、高大連携の強化

◆「大学発教育支援コンソーシアム」構想の推進や市立学校等と大学の連携推進

◆産学公連携による「京都教育会議」の創設

④ 大学との連携による研究の推進と活用

京都のまち全体がかかえる課題や京都の発展につながる研究を推進するとともに、研究成果を行政施策に反映するためのシステムを構築します。

重点

◆大学・研究者等の研究成果を京都の未来のまちづくりへ反映

各大学・研究者等の研究ストックも含め、京都がかかえる課題や、京都の未来に役立つテーマ等についての調査・研究を推進し、その成果を市政や未来のまちづくりに反映させるため、「最先端研究知シンクタンク（仮称）」(*6)の制度設計を行います。

(*1) 未来創造型企業支援プロジェクト

専任コーディネーターの配置や研究開発補助金制度の創設により、ベンチャー企業の発掘・育成から認定・発展に至るまで、きめ細やかで一貫した支援を行う事業。

(*2) 知的クラスター創成事業

「知的クラスター」とは、大学等の研究機関を核に、地域内外の企業等も参画して技術革新を創出するためのシステム。現在、文部科学省では世界レベルのクラスターとして発展可能な地域として、「京都・けいはんな学研地域」を含め全国で9地域を指定し、重点的に支援している。

(*3) 知恵産業融合センター

京都地域の中小・ベンチャー企業等を対象に、様々な伝統産業と先端産業の技術を結集し、技法・技能の共有と融合を図り、新たな「京都ブランド」の創出と技術者の養成を行う組織。

(*4) 京都産学公連携機構

京都における産・学・公のあらゆる機関が相互に情報を共有しながら、連携と協働を進めるための基盤として、平成15年2月19日に設置された組織。

(*5) ポータルサイト

インターネットの入り口に相当する商用のサイトのこと。検索システムやリンク集、ニュース配信などのサービスを提供する。

(*6) 最先端研究知シンクタンク（仮称）

京都市の政策を対象に、大学や産業界等で活躍する新進気鋭の研究者からなるシンクタンクを設置し、政策課題について調査研究を行うことで、研究者が持つ最先端の研究知を市政各分野の今後の政策立案に活かし、実践する。

計画の推進

計画推進組織

実施主体である、京都市、大学コンソーシアム京都、大学、学生、企業、地域、NPO等からなる「大学のまち京都推進会議」の機能を継承し、京都市と大学コンソーシアム京都とが協働で、計画の進行管理を行います。

事業の推進に当たっては、計画の推進状況の評価に、外部の視点や学生の意見を取り入れ、PDCA(Plan Do Check Action)のサイクルを構築し、十分成果が上がらない事業の見直し、新規事業の検討を行います。

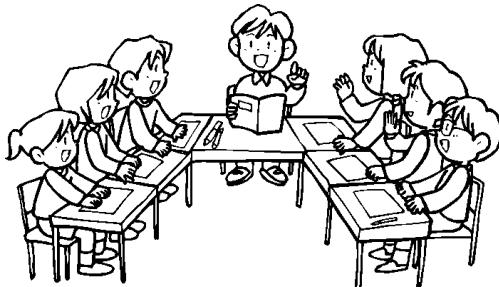
キャンパスプラザ京都の広報・PR

大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等の間の連携及び交流を促進する活動のために、京都市が設置した、「大学のまち京都」のシンボルである、キャンパスプラザ京都(京都市大学のまち交流センター)が、学生のみならず生涯学習の拠点ともなるよう、更に幅広い層に向け、広報・PRを強化します。

※財団法人大学コンソーシアム京都は、大学連携の力を活かし、キャンパスプラザ京都の管理及び事業の指定管理者として、平成18年度から5箇年、委託事務を行っています。

計画推進期間

この計画は、近年の大学を取り巻く状況の変化のスピードを勘案し、平成21年度から5年間とします。



大学のまち京都・学生のまち京都推進計画 概要版

平成21(2009)年2月

京都市 総合企画局 政策推進室 大学政策担当

TEL 075-222-3103

FAX 075-213-0443

URL http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/soshiki/2-9-7-0-0_1.html

*この計画の本冊は、京都市総合企画局政策推進室（大学政策担当）のホームページに掲載するとともに、同室にて閲覧できます。

*表紙のイラストは、京都精華大学卒業生によるものです。